授業改善推進プラン（教科　理科）

昨年度の授業改善推進プランの成果と課題		
１年	２年	３年
時間をかけて丁寧に指導した単元では到達度が高かった。計算問題等、生徒自身が取り組まないとならない範囲では課題の提示の仕方に工夫と改善が必要である。	意欲的に学習に取り組むことができた。基本的な計算問題に課題が残った。実験方法や結果、考察など、自分で考え、教科書を読みながら課題に取り組む姿勢を伸ばしていく。	意欲的に学習に取り組むことができた。仮説を立て、実験結果を考える思考的な学習も取り入れることができた。

学年毎の課題分析	学　年	生徒の実態	学力調査、授業アンケート等を受けての具体的な授業改善策	
			第1回	第2回
	１　年	・意欲的に授業に取り組むことができる。表現力を伸ばすことが課題である。	・プリントを使った授業形態を続けていく。 ・生徒の作業速度に差がるため、班編成に工夫が必要である。	・班編成を工夫し、学び合いがしやすい環境をつくった。 ・思考を伴う発問を多く取り入れ、問題解決に至るプロセスで必要な力を養う。
	２　年	・意欲的に授業に取り組むことができる。基礎学力の定着に差がある。	・活発な活動を安全に行うことができるよう配慮する。 ・小テストを行い、生徒一人一人のつまずきを把握すると共に反復学習を徹底する。	・学級内で学習到達度の差が大きいため、個別の指導が大変有効である。反復学習とスモールステップによる指導を継続する。
	３　年	・意欲的に授業に取り組むことができる。実験結果から性質を読み取る力を伸ばすことが課題である。	・活発な活動ができるよう教材を工夫し、話し合い活動を増やす。 ・実験の検証や自身の考えを発表する機会をつくる。	・小テストを通じて、つまずきの傾向を把握できた。 ・実験の検証では、自身の考えを発表できる生徒が増えてきた。

今年度の授業改善推進プランの成果と課題		
１年	２年	３年